

6S-02 愛媛大学におけるオンライン登録（教育用 I D 発行）システム

二宮 佳代 近藤 理
愛媛大学

1. はじめに

愛媛大学では、平成 11 年度から、学生による総合情報処理センター等の計算機利用について、情報化推進委員会で次のような事項を決定した^[1]。

- ・共通基礎教育科目である「情報科学」の単位修得者に対しては、計算機利用許可（I D 発行）を行う。

- ・「情報科学」の講義には、基本的な使用法、モラル及び人権・知的財産権に関する「ガイドライン」を含める。

- ・「情報科学」の受講以前でも、十分な知識・技術を有する学生には、オンライン登録を可能にして、簡単なテスト（使用法、モラル等）を行った後に I D 発行をする。

- ・オンライン登録の準備等は、総合情報処理センターで行う。

I D の発行は、全学の新入生を対象とした必修科目である「情報科学」の授業中に、申請書及び誓約書と引き替えに行われる。しかし、計算機資源の制約等から、「情報科学」の開講は前期・後期に分かれている。後期受講の学生は、前期の間、計算機の利用（学生用に解放されたパソコン端末への接続や電子メールの利用）ができない。そこで、計算機利用の基本的な事項に関する知識の有無を確認した上で、希望する学生に対して I D を発行するための教育用 I D 発行システムを作成した。

2. システムの概要と実行手順

本システムは、Web 上で基本的な事項に関するテストを行った後、合格者に対して、申請

書及び誓約書と引き替えに、承認書を発行するというものである。実際には、入学時に全学生の I D を一括登録してデータベース化している。このシステムは、CPU : PentiumII 350MHz、メモリ : 256MB、OS : Microsoft WindowsNT サーバ 4.0 の AT 互換機上で実現している。

本システムは、前期にセンターで行う I D 発行説明会で使用される。説明会では、前述の「ガイドライン」を基に、総合情報処理センター情報処理教育専門委員会で作成した「ガイドラインに基づく説明資料」^[2]の内容と簡単なパソコンの操作法等を説明した後、I D の発行を次の手順で実行する（図 1）。

- ①オンライン登録画面に接続するため、全員共通のアカウントとパスワードで認証を行う。

- ②学生の氏名と学生番号をデータベースと照合し、発行対象学生かどうかの判断を行う。

- ③パソコンやネットワークを利用するための基本的なモラル等に関するテストを Yes / No 形式で 10 問行う。問題は 40 問の中からランダムに出題される。テスト終了後、採点結果と共に質問の解説を表示する。100 点になるまで繰り返す。

- ④テストに合格すれば、「ガイドライン」の遵守を確認する。

- ⑤申請書及び誓約書をプリンタに出力し、学生は必要事項を記入する。

- ⑥承認書をプリンタに出力し、説明会担当者が学生証により本人であることの確認を行った後、申請書と引き替えに配布する。

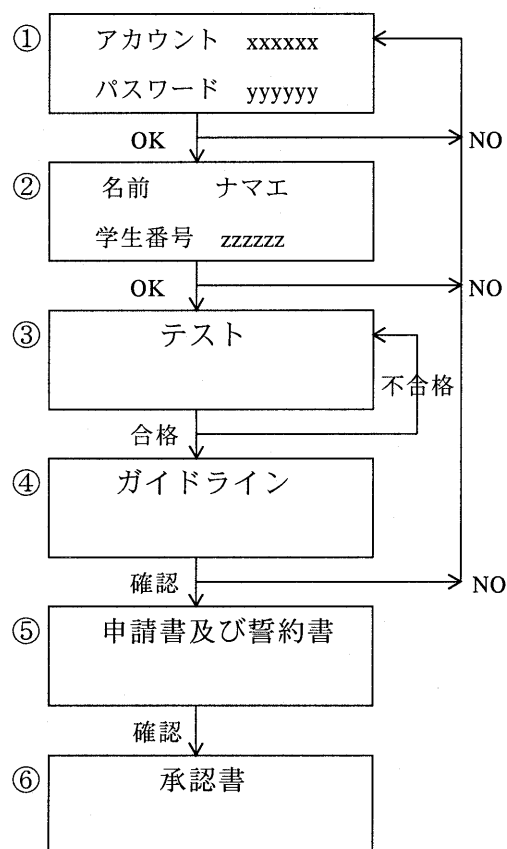


図1 処理の流れ

3. システムの運用

愛媛大学では、平成10年度からすでに一部の学部の学生にIDを発行していた。全学生への配布は初めての試みであったため、アナウンスが不十分でID発行説明会の参加者は少なく、途中で申請書等の書式を変更をするなど、テスト的な運用にならざるを得なかった。また、本システムについて、テストを「情報科学」担当教官が授業中に学生に行わせてみたところ、質問の語句の意味がわからない学生がいたため、用語集のWebサイトへのリンクを追加する等の改善を行った。

平成12年度は、総合情報処理センターの建物が完成し、分散していた演習室が全てここに集まった。パソコン台数も増え、演習室の利用時間も延長された。学生の電子メール利用及び

インターネット接続がより一般的になってきたことなどから、前期にIDの発行を希望する学生も増加している。

4. おわりに

数年後、高等学校の必修教科として「情報」が導入される。そこでは、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」という3つの観点をバランスよく育てることが重要であるとされてる。しかし、今後の数年間、大学への新入生は、初等中等教育の課程で計算機と情報技術に関する体系的な教育を受ける機会がなかった最後の世代になる可能性がある。このような新入生に対しては、

(1) 全学共通のテキスト^[1]等を利用し、必要十分な導入教育を行った上で、

(2) 早期に総合情報処理センター利用許可（ID発行）を行う、

ことがいずれも重要である。しかし、計算機資源等の制約から、「情報科学」の全学部前期開講は現在のところ難しい状況にある。これら(1)、(2)の機能の両者の完全なシステム化は困難であるとしても、ここで作成したようなシステムは、計算機・ネットワーク利用上の「モラル」に関する学生の理解を確認し、IDの早期発行を支援する意味では有効であると考えられる。

5. 参考文献

[1] 野田松太郎：愛媛大学のキャンパス情報化について、学報 No.424。

[2] 総合情報処理センター情報処理教育専門委員会、ガイドラインに基づく説明資料、1999。

[3] 上田和章, 大塚寛, 中川裕治, 山田宏之, 山田芳郎, 和田武：情報科学—情報リテラシーとコンピュータのしくみ—, 学術図書出版社, 2000。